防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 114 号(2016. 9. 1)
事務局 川西地区自主防災会

～　自主防災会の運営　～

かがわ自主ぼう連絡協議会
会長　岩崎　正朔

暑い夏が続きましたが、この原稿を書いている８月中旬早朝から元気よく鳴いていた「せみの鳴き声」もプッツリと消え、夜半になると美しい鳴き声の「鈴虫」が元気をだしています。さて、自主防災会を立ち上げ、それを動かし、永続きさせる。言うは易し、行うは難し。これが大半だと思います。自治会や町内会の運営も実践してみると、これまた大変だ。しかし、それを上回る大変さは自主防災会にあります。こんなことを書くと、行政当局からおしかりを受けることになりますが、現実として理解してほしいと思います。では、何が大変なのか…

（１）リーダーの心意気

現役時代においても、退職後の活動も同じですが、「やらされている」と思っているならば、即刻、リーダーの役目から降りるべきである。周囲の人達からすすめられ、「リーダー」に就くと、とにかく「率先垂範」、何をすべきか迷うと、何事も相談すべし、小生（岩崎）にも遠慮なく連絡いただきたいと思っています。

（２）リーダーの任期

昨今、自治会長を筆頭に１年交替が多くなっていますが、ベストは 5～8 年継続するのが望ましいのですが、止むを得ず毎年交代するのであれば、「昨年度の会長」＋「本年度の会長」＋「次年度の会長」による共同代表制による業務運営も考えてほしいものです。事実、県内にもこの方式によってうまく自主防災会の運営を行なっている団体もいます。

（３）仲間作り

私のまち川西町でも 15 年前に立ち上げましたが、当初は 3～4 人でした。それも兼務者ばかり、このような状態で 3 年間、組織整備して、その後、現在の防災部を設立して、改ためて人集めを行なった結果、5 人ほど集まってきました。集めてきたというのが正解でなかろうかと思っています。多少強引に勧誘したような気がしていますが、同級生、職場仲間、ご近所の人などにアタックしました。とにかく、畑作業している 60 才前後の人を見つけると、必ず声をかけるように…何故かというと、サラリーマン退くと、野菜

作りかゴルフ場通い、この 2 コースが定番で、ゴルフ場通いは地域ボランティア皆無に均しい（何度もアタックしましたが、結果が良くなかった）。

（４）継続のしかけ

①私達は平成 13 年から 8 年間位、まず、旧北淡町と神戸市内の被害の大きいかった自治会やまちづくり協議会、更には「人と未来の防災センタ」、足しげく通いました。バス 1 台分とか、8 人乗り 1 台分とか、役割分担に応じた視察、研修やノウハウをいただく人脈作りにも精をだしました。

平成28年3月4日　第20回防災まちづくり大賞表彰式　総務大臣賞
於　都市センターホテル

②神戸との連携によって、「防災まちづくり大賞」という賞に出合うことになって、平成 18 年から約 10 年間 6 回ほどチャレンジ。これによって新たな人的ネットワークが形成、それも全国的に拡大されました。

③マスコミ関係者とは、ていねいをモットーに連携を大切にすることによって、多くの新鮮な情報を得ることが出来たし、時々ブラウン管に登場することによって、会員や家族の皆様から喜びの声を聞くようになり、そのことから励みをいただきました。

④女性会員の参画も継続に欠かせない大きな要素を秘めている。全体の 2～3 割、占めていただくと、しなやかなチーム作りが出来、先方様への訪問活動や研修・訓練行動に女性特有の心くばりや気くばりの効果が発揮され、好評であるし、会の運営においても欠かせない大きなウエイトを占めています。

⑤神社行事の中で「直会」：なおらいといって、祭典の儀式が終了すると、参列者の心をひとつにするという、同じものを食べるという習慣がありますが、防災活動含む地域ボランティア活動にもこの「直会」が欠かせない。10～15 人規模でシンポジューム参加しても、食事を共にする。厳しい活動が続くと、息ぬきに軽く、一杯とか、適宜アルコールを交えるのも

団体生活に欠かせないものである。

（５）資金調達

①私は今、自治会、コミュニティ組織、旧大字の協議会、神社、寺院等の運営責任者である。すべての財務関係を洗いだし、2～3 割は運営費をカットしてきました。いつ発生するか分からない大災害に備えてのためであり、いろんな団体役員に、このような切り口から防災意識を啓発させることに繋がりましたし、経費の捻出にもなりました。

②地域には昔からの慣らわしがあって、合併等によってその意味が無くなっているのにお金の流れを見直していない事象があります。この扱いは既得権を主張され、整理するのに相当なエネルギーが必要で、かつリスクが伴いますので取組みにあたって配慮が必要です。

③活動がしっかりとしてきますと、「地域住民」更には「企業・団体」の皆様にも協力依頼ができると思います。企業・団体の皆様には、「地域と一緒になって、備蓄等を行なっていきませんか」と、ボールを投げることも、これからの地域活動に欠かせないものと思います。

④金集めが苦にならなくなると、一番スマートな資金調達は、「赤い羽根共同募金のテーマ型募金」の活用でしょう。事業計画を策定しながら必要な資金量を、街中や企業・商店・病院等をかけ巡って来るのはいかがですか。1～2 回継続すると固定客が出来、あまり苦労することなく目標必達となるでしょう。

赤い羽根
共同募金

TEL 087-823-2110

（６）結び

いずれにせよ、自主防災活動は「自主的」「自発的」に行なうものであって、軌道にのせて走っていくのは大変なものでありますが、前をみて実践あるのみです。今回の熊本地震で大被害を被った熊本城、築城当時、120 本の井戸を城内に掘って、籠城に備えていました。約 450 年前から飲料水対策、現代版の備蓄がキチンとなされていたことです。地域を守っていくのは「共助」が命ですよ。共に頑張っていきましょう。

事務局だより

平成28年　9月

今月の事務局だよりは、事務局を担当している川西地区の近況をお知らせします。

（１）「災害用トイレ」３基設置の準備を進めています。

丸亀市危機管理課、建築課、更には教育委員会総務課、又、小学校校長と６月から打合せと調査を実施した結果、丸亀市内第１号としてモデル設置というカタチで整理がつき、現在資金負担について調整中で９月上旬には確定の予定です。

（２）２台目の大型発電機を購入しました

地元小学校において「災害用トイレ」設置について調査研究中に大型浄化槽の「ブロア」電源として、３相２００Ｖの容量的には１０kVA 位が必要と判明。現在は商用電源で運転中（常用、予備の交互運転）ですが、大災害発生すると、ライフラインが長時間途絶。こうなりますと、避難所と使用する学校内のすべてのトイレが使用不可となるため、これを救済する大型発電機が必要となることから２台目の導入を図かりました。

編集後記

今月の防災減災の輪は、かがわ自主ぼう連絡協議会　会長　岩﨑正朔の原稿を掲載させていただきました。